

遺伝性ジストニア

- ・おなじ遺伝子異常でも、大きく症状が異なる場合がある
(無症状～軽症～重症)
- ・遺伝性ジストニアも、他のジストニアと同様に、治療により症状を緩和することもできる
- ・遺伝子異常が分かれば、治療法の選択に役立てることができる
- ・将来的に、原因に基づく治療法の開発につながる可能性がある

遺伝性ジストニアは指定難病に認定されました

難病情報センター

Japan Intractable Diseases Information Center



文字サイズの変更

標準 大 特大

サイト内検索

お知らせ

国の難病対策

指定難病一覧

患者会情報

医療費助成制度

[HOME](#) >> [国の難病対策](#) >> 「2015年から始まった新たな難病対策」



「2015年から始まった新たな難病対策」



お問い合わせ

詳しくはこちら

病気の解説・診断基準・
臨床調査個人票の一覧

(いでんせいじすとにあ)

遺伝性ジストニア

病気の解説

概要・診断基準等

臨床調査個人票

【関係学会】

[日本リハビリテーション医学会](#)、[日本耳鼻咽喉科学会](#)、[日本神経学会](#)、[小児神経学会](#)

【研究班】

[神経変性疾患領域における基盤的調査研究班](#) 名簿

関連する疾患群

[神経・筋疾患](#)

治療－さまざまな治療法を、タイプに応じて

・どのようなタイプのジストニアか？

部位：眼（眼瞼痙攣）、頸部（痙性斜頸）、上肢（書痙）、下肢
喉頭（痙攣性発声障害）、口・顎・舌

症状の範囲：症状が局所にとどまるもの（局所性ジストニア）、
全身に及ぶもの（全身性ジストニア）

年齢（小児）、発作性かどうか

・治療法

内服治療

ボツリヌス注射

MAB (Muscle afferent block)

脳深部刺激術 (DBS)

バクロフェン髄注